

## 6. 薬学部

(1) 薬学部の教育目的と特徴	6-2
(2) 「教育の水準」の分析	6-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	6-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	6-10
【参考】データ分析集 指標一覧	6-11

## (1) 薬学部の教育目的と特徴

### 1. 教育目的

長崎大学の基本的目標「長年にわたり培ってきた大学の個性と伝統を基盤に、新しい価値観と個性輝く人材を創出し、大きく変容しつつある現代世界と地域の持続的発展に寄与する」及び学士課程における中期目標「教育の質的転換を通して学びの質と水準を保証し、確固たる学士力を備えた人材を育成する。」の下、本学部は、「ヒトの健康を目指して」の標語の下、医薬品の創製、医療、健康・環境に関する基礎及び応用の科学を教育、研究すること、並びに「くすり」の専門家として社会的使命を遂行し得る人材の養成を以て社会に貢献することを基本理念としている。

本学部は薬学科と薬科学科を設けており、薬学科は「医療薬学に関する高度の専門的知識及び技能・態度を修得させ、豊かな人格と高い倫理観を備えた薬学専門職者として社会に貢献しうる有為の人材の育成」を、薬科学科は「医薬品の創製、環境衛生等に関する高度の専門的知識を修得させ、主体性と科学的創造性を備えた研究者、技術者として社会に貢献しうる有為の人材の育成」を目的として掲げている。

### 2. 特徴

本学部では「ヒトの健康を目指して」を標語に掲げ、特徴ある教育体制を整備している。まず、1年次において、医学、歯学、薬学、保健看護の学生と共修する少人数アクティブ・ラーニング及び薬局・病院、製薬企業、公的試験研究機関の見学を行ってキャリア意識を高めている。薬学科での薬剤師養成教育では、育薬研究教育センターが中心となり、4年次に症例検討医歯薬保共修アクティブ・ラーニングを含めた事前実習、5年次に実務実習、6年次に離島での薬局病院実習と大学病院での内科系診療科実習を行っている。さらに、文部科学省の「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」及び「大学間連携共同教育推進事業」に連続して採択された本学部を中心とする県内国公立3大学、自治体、職能団体が協力して医療人材育成拠点プログラムを構築している。そのプログラムでは、在宅チーム医療や在宅がん医療・緩和ケア教育に関する大学間共同の授業科目を多数開講している。薬科学科においては、「創薬科学」での研究志向型講義や分野横断型卒論発表会などを実施して、創造性と主体性を備えた研究者育成を目指している。いずれの学科においても、医歯薬融合型の研究組織を活かし、大学院教育と連携させた教育体制を整えている。また、下村脩博士ノーベル化学賞顕彰記念創薬研究教育センター、地域薬剤師卒後教育研修センター及び育薬研究教育センターがシンポジウム・講演会等への学部学生の積極的聴講を促して、研究者マインドの育成を図っている。

## (2) 「教育の水準」の分析

### 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

#### <必須記載項目1 学位授与方針>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 7606-i1-1）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

#### <必須記載項目2 教育課程方針>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 7606-i1-1）（再掲）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

#### <必須記載項目3 教育課程の編成，授業科目の内容>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料  
（別添資料 7606-i3-1）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料  
（別添資料 7606-i3-2, 7606-i3-3）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○平成28年度に、薬学部のカリキュラム・ポリシーでは、各学科のカリキュラムの特徴と特色ある科目を説明し、教育課程の編成及び実施方針を明文化した。また、カリキュラムの全体像を俯瞰し、各科目間の関連性が容易に理解できるように、カリキュラム・ツリーを加えた。さらに、各授業科目とディプロマ・ポリシーとの関連を示した。[3.1]

○平成24年度に文部科学省補助事業に採択された「多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成拠点」事業は、薬学部が中心となり新しい大学

## 長崎大学 薬学部 教育活動の状況

間連携共同教育プログラムを開発・実践した取組で、県内3大学が17のステークホルダーと共同で新たに設立した「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」の運営を薬学部が担った。本取組は参加大学が学習アウトカムを重視した順次性カリキュラムに基づく大学間単位互換の合同授業・実習を多数開講し、大学間連携教育の実質化と質保証を図ったもので、平成26年度には当初計画を超える13科目の“多職種協働による在宅がん医療・緩和ケア”をテーマとした大学間合同授業・実習を「NICE キャンパス長崎」（長崎県内全大学が参加する単位互換制度）に登録・開講し、397名の学生が履修した。事業最終年度の平成28年度には、外部評価の提言を取り入れた形で、授業内容のエッセンスを「WEB 講座」として動画配信する事業計画を新たに追加し、e-ラーニングによる学生の学修環境の強化を図った。補助事業が終了した平成29年度以降も、薬学部主導で「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」が結成されており、本事業で開発した科目の一部を薬学部の専門教育に組み込むとともに「NICE キャンパス長崎」に登録し、現在も他大学の学生が受講できるよう学修環境を整備している。また「WEB 講座」の動画配信も継続している。なお、本事業は日本学術振興会が行った大学間連携共同教育推進事業評価委員会の事後評価において、構築した教育プログラムや連携・実施体制、補助期間終了後の継続体制の内容が高く評価され、最高評価のS評価を受けることができた。（別添資料7606-i3-4~5）[3.2]

- 両学科1年次に薬学・医学・歯学・保健学科の学生10名が共修する少人数アクティブ・ラーニングの教養ゼミナール科目「初年次セミナー」を開講し、主として医療関連のテーマについて情報収集、討論、発表させている。さらに薬学科4年次には「治療薬剤学Ⅱ」の中で薬学・医学・歯学・保健学科の学生が共修する少人数アクティブ・ラーニングによる「症例検討（終末医療退院時模擬カンファレンス）」を行っている。これらの科目は将来薬の専門家としてチーム医療を担う人材の育成を意識したもので、学修への動機づけとしても位置づけられる。[3.2]
- 薬学科高学年での特徴ある臨床実習としては、5年次生の科目「高次臨床実務実習Ⅰ」で長崎大学病院において医学部生と共修で参加型臨床実習を行っており、6年次には医療過疎地域を多く抱える長崎県の特殊な社会要請に応える教育として、医学部生との共修による「高次臨床実務実習Ⅱ（離島実習）」を長崎県五島市及び新上五島町で実施している。これらの科目は、薬剤師としてチーム医療や地域医療における役割を認識し、医療現場で活躍するために必要な技能や態度、コミュニケーション能力などを養成するためのものである。[3.2]

＜必須記載項目 4 授業形態, 学習指導法＞

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料  
(別添資料 7606-i4-1)
- ・ シラバスの全件, 全項目が確認できる資料, 学生便覧等関係資料  
(別添資料 7606-i4-2, 別添資料 7606-i4-3, 別添資料 7606-i4-4)
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数  
(別添資料 7606-i4-5)
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料 (別添資料 7606-i4-6)
- ・ 指標番号 5, 9～10 (データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 先導的な薬剤師養成のための教育プログラムを開発して実践し, 育薬に関する研究活動及び臨床共同研究を支援するために, 育薬研究教育センターを平成 28 年 4 月に設立し, 社会に貢献できる先導的な薬剤師の育成並びに若手研究者の研究を支援する体制を整えている。本センターの教員は, 薬学科の臨床教育関連科目カリキュラムの継続的な改善を図り, 令和元年度からは4年次～6年次の5科目(実践薬学Ⅰ, 実践薬学Ⅱ, 実務実習事前実習, 実務実習病院・薬局実習, 在宅医療実践学)を担当することを通して, 先導的な薬剤師養成のための教育プログラムの開発と実践を担っている。また毎年9月には本学出身の若手研究者による講演と学部生・大学院生の研究発表を行う若手シンポジウムを企画・開催し, 若手研究者の研究活動の紹介を通して, 学部生・大学院生の研究に対する意欲の涵養を図っている。[4.1]
- 入学後早期に研究マインド醸成に取り組むために, 1年次に研究室を体験学習する科目を導入し, さらに3年次10月から研究室に配属させて, 早い段階で研究環境に置き学修意欲を高め, スムーズに卒業研究に取り組むことができるよう配慮している。[4.1]
- ファカルティ・ディベロップメント (FD) などを通じた教育改善に関する学部独自のFDにより, 主体性を涵養するための教育手法の導入及び情報通信技術 (ICT) の積極的な活用を組織的に推進してきた。その結果, 令和元年度の時点では, 講義科目・演習科目・実習科目全体のアクティブ・ラーニング導入科目は 39%, アクティブ・ラーニングを加味した科目は 55%で, 合わせると 94%を占める。なお, 講義科目だけで見ると 26%の科目で導入されており, 加味した授業を行っている科目を合わせると 93%である。[4.1]

<必須記載項目5 履修指導, 支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料 (別添資料 7606-i5-1 )
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料 (別添資料 7606-i5-2 )
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料 (別添資料 7606-i5-3 )
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料 (別添資料 7606-i5-4 )

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 研究室配属までは学生およそ 10 人あたりにメンター教員 1 名を充て、ポートフォリオでメンター教員が履修状況を確認して指導アドバイスをを行い、必要なら個別相談できる体制を整えている。研究室配属後は研究室で指導教員が相談に当たる。成績不良者については各学年で基準を設定しており、前期と後期の開始時にメンター教員による面談を行いきめ細かい指導を実践している。さらに、薬学部・大学院医歯薬学総合研究科学生等支援等協議会を年 2 回開催し、学部長、学生委員、教務委員長、大学院教務委員、カウンセラー、薬学部学務担当で問題を抱えた学生について情報共有と意見交換を行っている。[5.1]
- 学生の学修意欲向上を図り、成績だけでなく、語学修得や自己省察などの様々な活動を奨励するために、2019 年度より成績優秀者表彰制度 (3 年進級時と卒業時) を導入した。[5.1]
- 卒業研究については、各研究室による所定の卒業論文や卒業研究発表会とは別に、エントリー制による育薬研究教育センター若手シンポジウムポスター発表会及び分野横断型卒業研究ポスター発表会を開催している。いずれの発表会においても、優秀発表賞を選出し、卒業研究に対するモチベーションの向上を図っている。[5.2]。
- 2019 年度より、各学年の GPA (grade point average) 及び成績分布を学生に提示することにより、学修成果の可視化を行った。[5.2]

<必須記載項目6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準 (別添資料 7606-i6-1)
- ・ 成績評価の分布表 (別添資料 7606-i6-2, 別添資料 7606-i6-3 )

- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 7606-i6-4, 別添資料 7606-i6-5）

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- 第3期中期目標期間における薬学共用試験（CBT）の合格率は 99.3%，薬学客観的臨床能力試験（OSCE）の合格率は 100%となっている。[6.1]

**<必須記載項目7 卒業（修了）判定>**

**【基本的な記載事項】**

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 7606-i7-1）
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料（別添資料 7606-i7-2, 別添資料 7606-i7-3）

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- 卒業研究の進捗状況を各学期ごとに学生がポートフォリオに入力し、最終的に卒業論文をポートフォリオに入力し、主任指導教員が評価している。さらに、平成30年度には、卒業生が身に付けておくべき能力評価のための指標を設定し、指標に基づく評価を実施する体制を整えた。[7.1]

**<必須記載項目8 学生の受入>**

**【基本的な記載事項】**

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 7606-i1-1）（再掲）
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 7606-i8-1）
- ・ 指標番号 1～3, 6～7（データ分析集）

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- 平成31年度入試から薬学科の推薦入試（4名：地域医療貢献枠）を新設しており、応募者は33名に達した。なお、推薦入試による入学者の入学後の学業成績は良好である（学年全体平均 GPA:2.92, 推薦入学者平均 GPA:3.56）。[8.1]
- 高校生や大学生の世代において、スマートフォンなどのモバイル端末によりウェ

## 長崎大学 薬学部 教育活動の状況

ウェブサイト閲覧する割合が年々高まっているため、入試情報や学務情報の発信を充実させる目的で、2019年4月より(2019年度)薬学部ウェブサイトレスポンス対応に改修した。結果として、モバイル端末からのアクセス数、入試情報閲覧数、学務情報閲覧数がそれぞれ前年度比11%、58%、21%増加した。(別添資料7606-i8-2) [8.1]

### <選択記載項目A 教育の国際性>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数  
(別添資料7606-i4-5) (再掲)
- ・ 指標番号3, 5 (データ分析集)

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 海外協定大学との短期交換留学及び訪問研修生受入実績は、2016年度の受入24名、派遣13名から、2019年度の受入は16名へ減少したものの、派遣については24名へ増加している。[A.1]
- 薬学部の下村脩博士ノーベル化学賞顕彰記念創薬研究教育センターでは、グローバル人材の育成を目的として、学部学生・大学院生及び教員を対象に、毎年グローバル人材育成講演会を開催し、留学した教員や学生の留学体験談を共有している。2019年12月に開催した第5回長崎大学薬学部グローバル人材育成講演会には、39名が参加した。[A.1]

### <選択記載項目B 地域・附属病院との連携による教育活動>

#### 【基本的な記載事項】

(特になし)

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 長崎大学薬学部、長崎国際大学薬学部、長崎県福祉保健部、長崎県薬剤師会、長崎市薬剤師会、佐世保市薬剤師会、長崎県病院薬剤師会の7団体により「長崎薬学コンソーシアム」を結成し、薬学教育の発展に努めている。2017年4月には、地域で貢献する薬剤師としての就職促進を目的として、薬学科低学年学生を対象にして、「長崎県薬学生セミナー」を開催した。[B.1]

## 長崎大学 薬学部 教育活動の状況

○2019年度には、アメリカ・ニューメキシコ大学薬学部、長崎県薬剤師会と連携して、薬学生参加型不整脈スクリーニング・健康相談イベントを実施した。ニューメキシコ大学薬学部は、これまでにアメリカにおいて多数の薬学生主導型ヘルスフェアを行い、地域医療に貢献してきたため、この連携は、日本の薬学教育発展の一助となると考えられる。このイベントを通して、長崎大学薬学部は、地域薬剤師職域の広報的役割を担うとともに、薬学生と地域薬剤師の予防医療への積極的参画を促進し、薬学教育の充実を図った。[B.1]

### <選択記載項目C 教育の質の保証・向上>

#### 【基本的な記載事項】

(特になし)

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○ファカルティ・ディベロップメント (FD) については、全学的なFDへの参加に加え、薬学部FD企画実施委員会を中心として、主に教育改善に関する学部独自のFDを毎年行っている。本学部教員の2019年度のFD参加率は92%と極めて高い。  
[C.1]

○薬学部では平成29年度、分野別評価として「薬学教育評価機構」による薬学教育評価を受審し、平成30年3月に6年制薬学教育プログラムが「薬学教育評価基準に適合している」と認定された(認定期間は2025年3月31日までの7年間)。  
[C.2]

### <選択記載項目D リカレント教育の推進>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所(別添資料7606-iD-1)
- ・ 指標番号2, 4(データ分析集)

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○薬剤師のリカレント教育を推進するため、薬学部地域薬剤師卒後教育研修センターでは、薬剤師の資質向上を図っている。第3期中期目標期間には、卒後教育研修のための公開講演会を3回開催している。なお、直近の2019年3月に開催した第19回地域薬剤師卒後教育研修センター講演会においては、49名が参加した。[D.1]

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

### <必須記載項目1 卒業（修了）率，資格取得等>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 7606-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 7606-ii1-2）
- ・ 指標番号 14～20（データ分析集）
- ・ 薬学課程卒業生の薬剤師国家試験合格率（厚生労働省公表）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 薬剤師国家試験については，薬学部では，教務委員会国家試験対策部会を中心として，演習，模試，講習会等の支援を積極的に行うことで，2018年度には，現役卒業生の合格率100%を達成した。[1.1]
- 第3期中期目標期間における学部学生の学会における受賞数は1件（薬学科学生1件）となっている。（別添資料 7606-ii1-3）[1.1]

### <必須記載項目2 就職，進学>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 第3期中期目標期間における本学部薬学科の就職先は，33%が病院薬剤部であり，その15%が大学病院や地域中核病院である。約27%が調剤薬局，19%が企業へ就職している。一方，薬科学科では84%が大学院に進学している。[2.1]

### <選択記載項目B 卒業（修了）生からの意見聴取>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 卒業（修了）後，一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 7606-iiB-1）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2018年度に実施した2013及び2017年度薬学科卒業生へのアンケート調査では，専門分野に関する知識や技能について，86%が現在「役に立っている」又は「やや役に立っている」と回答している。[B.1]

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数(常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路データ	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 一部の指標（指標番号8，12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。

